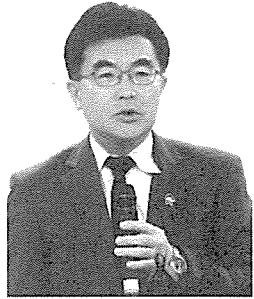


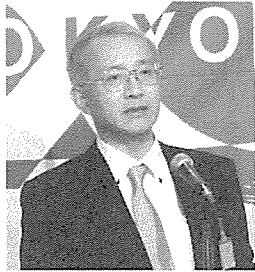
食肉センター協が総会、小原会長再任、長友氏を副会長に新任



全国食肉センター協議会（会長＝小原良教全農常務理事）は18日、都内で平成24年度通常総会を開催し提出全議案を承認するとともに、役員改選で小原会長理事、大杉祐一常務理事を再任、須永副会長の退任に伴う後任に㈱ミヤチクの長友和美副社長を新任した。

総会で小原会長（写真）は「飼料価格の高止まりやTPP問題からの生産意欲の低下、口蹄疫の後遺症などが重なり、先行き不透明であり、将来展望が開けないが、会員の皆様は事業競争力と機能を十分發揮して、新たな価値を創造してほしい。協議会としてこれまで以上に力強く事業を展開すべく支援していきたい」とあいさつ。来賓の農水省畜産部の太鼓矢修一・食肉鶏卵課課長補佐は「昨年の節電では大変ご苦労をかけたが、今年度は関西地区等で節電するも他の地域は何とかなりそうだ。今後とも衛生管理を徹底して事業を運営してください」と述べ、情勢報告で「食品の新たな基準値を超過した牛肉の取扱い」と、会計検査院による「牛肉等関税を財源とする肉用子牛等対策の施策等に関する会計検査の結果」についての概要を説明し、協議会の会員も活用している食肉処理施設の整備等に係る多額の財政資金の投入が、食肉処理施設の稼働率面で、向上していないケースがあり、検査院はハードとソフトの両面からの整備計画の実施を強く求めていることを説明した。

TO K Y O X が総会、規格厳格化や加工品作り了承



TO K Y O X Association は17日、東京・八王子市内で平成24年度総会を開催し、23年度事業報告や24年度事業計画、肉質規格の厳格化問題（5月15日付既報）等を承認した。また役員改選で植村光一郎会長、糸瀬好弘副会長に再任、佐藤浩一、小林和人、北村陽三、林実の4人の理事の再選と中村敏章氏の理事新任を決めた。

総会で植村会長（写真）は「23年度は8815頭を販売したが、24年度は9500頭を目標としている。Xの生産農家戸数は28戸で生産している。今年度はスカイツリーにX豚の認定店が3店舗入居することになっている。また八王子と場閉鎖問題では心配をかけたが、都の家畜衛生円滑化事業の運用で和光のアグリス・ワンでと畜することになった。X豚を販売してから15年となるが、おいしい豚肉を作ることと生産がますます発展するためにも適正価格の確保のため、24年度から規格を厳格化して全体の2割の豚を加工品や総菜作りに回すことにしたので協力を」と、肉質と再生産のための厳格化取組みを説明。来賓の東京都農林水産振興財団の斉藤彦明事業課長は「約束を厳しくやっているで頭数は増えないが、今年度は85頭の系統を維持していく。これからもおいしい豚肉の生産・研究に取り組みたい」と述べた。